

社会科

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に臨む態度から意欲的な姿勢がほとんどの生徒からうかがえるが、授業の持ち物や提出物を忘れる生徒も一部分で見られ、学習環境の整備や家庭学習の習慣の確立に課題がある生徒もいる。 ・地理的分野において、新しい知識を得ることに意欲的である一方、自らの力で文章や資料を読み取り、考えをまとめるなどの学習には消極的な面がみられる。歴史的分野においては小学校時の既習事項が定着できている生徒と、あまり定着ができていない生徒との差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期の始まりごとに授業準備等の学習環境を整えることの重要性について改めて指導を行う。また、社会科の学習方法確立に役立つ課題プリントの活用法を授業で説明し、日頃から学習する習慣を身に付けさせる。 ・学習意欲を継続的に高めるために、視聴覚教材を用いて生徒の興味・関心を高めつつ、単元ごとに確認テストを設け基礎基本の定着を図る。また、グループ活動やICTの活用を取り入れ、調べ学習や発表などを通じて、生徒の言語活動の充実に努める中で自分の考えをまとめ表現する機会を単元ごとに設ける。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・9割以上の生徒が意欲をもって授業に臨んでいる。昨年度から生徒の大半は基礎基本の定着を図ることができているが、1割程度の生徒は復習する習慣が身についておらず学習理解が高い生徒と、そうでない生徒の差が広がってきている。 ・課題などには意欲をもって取り組むことができているが、自らの考えを発表したり、発言したりすることに消極的な姿勢の生徒も3割程度いる。 ・単元レポートの作成に個人差が生じてきているので、0評価の生徒に対する補充的要素のある取り組みが必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続的に知識の定着を図るために単元ごとに確認テストを行うなど、基礎基本の定着を図る機会を設けていく。 ・ICTを活用し共同で意見の集約や情報交換する中で自分の考えを相手に伝え、考察を深める機会を単元ごとに取り入れていき、積極的に自らの考えを表現する力を養わせる。 ・レポート課題に取り組む生徒に対して、まとめる作業の工夫をクラス全体に周知すると同時に、課題のある生徒については個別に声掛けを行うなど、個に応じた対応を実施していく。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の大半に基礎基本の定着を図ることができている。三年生になり全体的に高い学習意欲を継続することができている。 ・課題などには意欲をもって取り組むことができているが、自らの考えを発表したり、発言したりすることに消極的な姿勢の生徒が多い。 ・資料の読み取りや文章による説明を求められる課題については、技能が身に付いている生徒と、まだまだ課題がある生徒に明確な差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着を図るために確認テストを行うなど、基礎基本の定着を図る機会を単元ごとに設けていく。また、生徒の興味・関心を高める教材の工夫を随時心がける。 ・グループ学習の時間を確保し、自分の考えを相手に伝え、考察を深める機会を単元ごとに取り入れていくことで、積極的に自らの考えを表現する力を養わせる。 ・記述問題などの入試対策として、問題演習を単元ごとに取り入れ、生徒が考える力の向上を図ることのできる機会を設ける。 ・日本の政治経済、外交の現状を、ICTを活用して調べる学習方法を勧める。 ・復習時にノートを使い自ら内容理解を進める学習の指導にあたる。